

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 55

2025 年 9 月 30 日（火）発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570 東京都小平市小川町1-830

被災地をたずねてー白梅防災プロジェクト

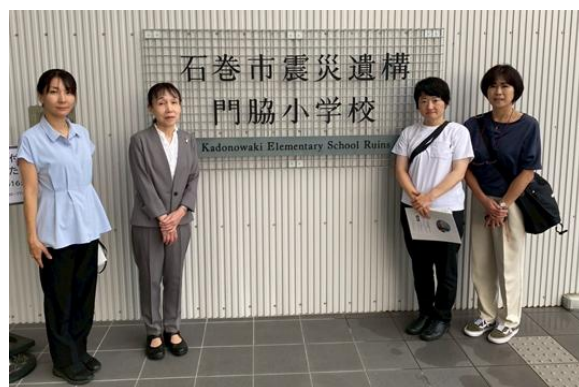
白梅学園大学子ども学部子ども心理学科 宮田まい子

白梅学園大学・白梅学園短期大学では、昨年度より学内の助成を受けまして「白梅防災プロジェクト」(代表:午頭潤子先生)を立ち上げて、防災と暮らしに関する様々な研修やイベントなどを企画実施しております。今回は、そのプロジェクトで実施しています被災地での視察にて、学んできたことの一部をご紹介します。と思います。

第一回目の視察は、2025 年 3 月 7 日～8 日に、陸前高田市において行いました。最初に、東日本大震災津波伝承館に伺い、スタッフの方から解説をいただきました。その後、語り部の方と共に街をまわり、点在する震災遺構を見学しながら、遺構に刻まれた当時の物語を色々伺いました。この時の宿泊先は当時仮設住宅が設置された小学校跡地に建つ仮設住宅体験施設であり、実際に使用されていた仮設住宅に泊まる体験をしました。夜は、当時その仮設住宅地区で自治会長をされていた方からお話を伺い、復興に向けて、人々の暮らしと心はどのように移行していったのか、仮設の暮らしの中で生み出された知恵と工夫、次々に見つかる課題と希望の中で、大切にされてこられたことなどを教えていただきました。

第二回目の視察は 2025 年 9 月 7 日～8 日に、石巻市と南三陸町において行いました。石巻市では、複数

の語り部の方にお会いすることができました。どの方も震災でお子さんを亡くされた遺族の方でもありました。その日からの日々を過ごし、行動し、考えてこられたことから様々な教えをいただけてきました。また南三陸町では、被災して新たな場所で再開した保育所において、園における防災についての取り組みや考え、今日的課題などについて伺ってきました。



この視察を通して学んだことの一つは、日ごろの在り方が重要であるということです。多くの語り部さんから聞かれたことは、必要なのは物の備蓄だけではなく、心の備えであるということでした。加えて、日ごろから関係を持つことの重要性も教えていただきました。隣人の氏名や年齢といった情報だけでなく、その人が得意とすることや苦手としていることなどを含む内容が共有されていることの大切さです。そしてそれは日常的な行いにおいて実現できるようにも思いました。日ごろの挨拶はもとより、出会ったときに少し足を止めてその時を共有するということからも実現できるように思います。その余裕を作り出すということ、実行していきたいと思っています。

小平西地区地域ネットワークって何？

2012 年 3 月 17 日に白梅学園大学関係者が様々な NPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース(団体の担当者でも可)の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

あそぼうかいを行いました

畑澤知己(子ども学科2年)

2025年7月12日に、あそぼうかいを開催しました。テーマを「夏だ！思いっきりあそぼう！」と題して、年々危険な暑さが増す今、安全に思いっきり遊べる空間を作りたいと考え、この目標のもと準備しました。当日には多くの方にお越しいただき、一緒に涼しさを感じ、思いっきり楽しく過ごすことが出来ました。

さて、今回のあそぼうかいでも5つのコーナーが展開されています。今回の各コーナーの様子をご紹介します。

受付コーナー

参加者の方がはじめに訪れる「うけつけコーナー」では、かにやひまわりなど、夏らしいデザインの名札を用



意し、子どもたち自ら名札を作っていました。うけつけコーナーでは七夕をイメージし、青のスズランテープを用いて壁に貼り付け、天の川に見立て、短冊にねがいごとを書いていただくなど、七夕の空気を感じていただきました。

せいさくコーナー

「せいさくコーナー」では、丸い紙皿を折ったり切ったりして、さかなやくらげに見立て、クレヨンで自分の好きな模様の海の生き物を作ること、夏という季節や、夏の海を感じられるように工夫しました。

ほっとスペース

「ホッとスペース」はホッとできる空間として、絵本や午睡のスペースでくつろげるようにしました。特に今回力

を入れたのが「スクラッチ」です。スクラッチとは絵の具で模様を描いた紙にクレヨンをぬって置き、それを削ることによって絵を描くものです。参加者さんや学生までもが黙々と削って絵を描いているのがとても印象的でした。

あそびコーナー

「あそびコーナー」では縁日をイメージし、モグラたたきやわなげ、魚釣りのコーナーを作って参加者さんを出迎えました。モグラたたきではモグラが壊れないように“やさしくたたく”ようお願いしたことで、参加者さんは力加減を考えるなどして創意工夫して楽しんでいました。



あ

おわりのつどい

あそぼうかいの締めくくりである「おわりのつどい」では、「なつのいちにち」という絵本を元に紙人形劇を行いました。背景を変える場面や、動きをつけるなど参加者さんに楽しんで貰えるような工夫をし、ゆったりと楽しんでもらうことができました。一緒に始まる前の手遊びをしたり、終わった後学生との関わりなどを見ることができました。制作したものを手に持ちながらそれぞれのコーナーを楽しんでいた、学生と関わりながら一緒に遊ぶ姿が見ることができ、私達学生にとっても楽しいあそぼうかいとなりました。また次回も参加者さんの方々に楽しんでもらえるようなあそぼうかいにしたいです。

次回は、2025年11月29(土)13時からです。

BOND～外国人労働者・難民と共に歩む会～

事務局 能松真紀

BOND は、高校生から社会人がメンバーのボランティア団体です。難民申請者を含めた非正規滞在者の支援活動や、入管収容施設内における人権侵害を入管に抗議したり、社会に訴えたりしています。具体的には、品川や茨城県牛久にある入管収容施設への面会活動、署名活動、学習会、デモの企画などを行っています。

2024 年末、世界の難民は1億2,320万人になりました。先進7カ国(G7)における2023年の難民認定数は、1位のアメリカと2位のドイツが6万人を超え、6位のイタリアも5000人近く、最下位の日本はわずか289人です。認定率も、カナダ(68.4%)イギリス(61.5%)、アメリカ(58.5%)、6位のイタリアは10.4%、日本はわずか3.2%です。

日本は、1981年に難民条約に加入しましたが、国連難民高等弁務官事務所が示す国際基準とかけ離れた形で、国内の難民認定制度を運用しています。認定の際、難民申請者の出身国情報が正確に収集されていなかったり、難民申請者に対して厳格な証拠と日本語訳の提出を求めたり、出身国政府から個別に把握されていることを条件にするなどの、国際基準より厳しい条件を設けています。

日本に住んでいる難民の多くは、難民認定されず、入管への収容、あるいは仮放免や監理措置という立場に立たされます。難民認定が不許可になると退去強制手続がとられ、裁判もなく、無期限に収容施設に収容さ

れることになります。収容が解かれると、仮放免または監理措置となり、労働の権利や移動の自由が奪われる上、医療へのアクセスが制限され、基本的人権が保証されない形で生活を強いられることになります。

最近では成田空港で「難民である」ことを申告したにもかかわらず、空港で拘束され、無期限に入管施設に収容されている人達がいるとの情報が複数報告されています。言葉も事情もわからず、保護を求めて難民であることを申告して収容されてしまう人達を思うと、心が痛みます。

2022年10月時点で、55万7千人が日本から海外へ移住しました。長期滞在者を含めると130万人の日本人が海外で暮らしています。また、日本には、380万人の外国籍の人が暮らしています。日本はすでに移民社会です。そして、多くの日本人もまた海外で暮らしています。国境を越えた移動は、決して珍しいことではありません。今、ここにいる人たちとどうやって一緒に暮らしていくのか、この国で暮らす者としてみんなで考えていきたいと思います。

*西ネットの中で外国人労働者や難民のために活動する人がいるということで、今回能松さんに寄稿していただきました。

外国人労働者や難民の問題について西ネットでも話をする必要がありますね。

幼稚園と小学校が手を取り合って ～ こどもたちの「探究する心」を育てる取組 ～ 小平市立小平第一小学校 校長 内藤 章

本校と白梅学園大学附属白梅幼稚園は、令和5年度から文部科学省の「研究開発学校」の指定を受け、幼稚園の年長児から小学校2年生までの3年間を見通した新しい教育の形をつくる取組を進めています。テーマは、「生活の中で出会う不思議や疑問を、自分の力で解決しようとする力を育てること」。こどもたちは、

日々の生活の中で「なんでだろう?」「どうしたらいいかな?」といった素朴な疑問をもち、それを友達や先生、地域の人たちと一緒に考え、調べ、試していく活動を行っています。

この取組の中心となるのが、「生活ひろば」という活動です。幼稚園と小学校で同じように取り入れ、地域の自

然や人との出会いをきっかけに、子どもたちが自分の興味や気付きから学びを広げていきます。活動の中では、失敗してもやり直すこと、友達と意見を交わすこと、自分の考えを表現することを大切にしています。

近年、子どもたちは大人の期待に合わせようとするあまり、自分で考えて動くことに不安を感じたり、失敗を恐れたりする姿も見られます。だからこそ、幼い頃から「自分で考え、話し合い、やってみる」経験を重ねていくことが大切だと考えています。

本研究は、私立の幼稚園と公立の小学校が協力し、地域の環境や人とのつながりを活かしながら、子どもたち一人一人の学びを支える試みです。白梅学園大学や小平市教育委員会のご協力のもと、地域ぐるみで子どもたちの育ちを支えていく体制づくりにもつながっています。

子どもたちの「なぜ？」を大切にし、それを「やってみよう！」につなげていくことで、自分で学ぶ力、考える力、そして人と関わる力を、しなやかに、そして粘り強く育んでいきたいと考えています。

つながいを育む現場から ～中央西圏域の相談支援を通じて～

小平市社会福祉協議会地域福祉推進課 生活相談支援センター (CSW) 高橋 朋也

小平市社会福祉協議会こだいら生活相談支援センターでは、地域にお住まいの方の困りごとに寄り添いながら、個別支援や地域づくりに取り組んでいます。私たちCSW(Community Social Worker)は、個人の生活課題に耳を傾け、地域の皆様のお力を借りながら、解決の糸口を探すとともに、地域に根差した福祉課題にも取り組む専門職です。

令和6年度は、小平市の中央西圏域にお住まいの方から、延べ278件の相談が寄せられました。内容は多岐にわたり、ひきこもりや地域とのつながりの欠如といった社会的孤立、就労困難や多重債務などの経済的な問題、住まいの喪失、多頭飼育崩壊といったペットを巡る課題も見られました。これらは複雑に絡み合い、複数の支援機関が関わる包括的な対応が必要となるケースも少なくありません。

そうした課題に対して、私たちは自立相談支援事業や就労準備支援事業などを通じ、継続的な伴走支援を行っています。関係機関との連携を図りながら、その人の状況や思いに応じた支援を丁寧に進めています。

また、地域づくりの支援もしています。生きづらさを抱える方の居場所への参加や、不登校児童のための日中の居場所、「こだまちサロン」の立ち上げ運営支援、寄付や物資の配布に関する相談などが寄せられ、多くの住民の方が力になろうとくださっています。そうした思いを形にするお手伝いも、CSWの役割です。

地域の課題は複雑化していますが、住民の皆さま、市民団体、専門機関と協力する中で、お互いに支え合おうとする関係が、一つ一つ出来上がっていると思います。これからは「誰も取り残されない地域」を目指し、地域と共に歩んでいきます。

第28回「第二きよか」に21人参加

2023年6月にスタートしたコミュニティサロン「第二きよか」は9月1日(月)で28回目をむかえました。スタッフを含めて21人が参加し、13時30分から15時30分までの2時間の交流を楽しみました。参加者には地域の民生委員、地域包括支援センターの職員、コミュニティソーシャルワーカー(CSW)をはじめとして地域在住の方々、サロンのある鷹の台ガーデンハウスの人々、さらには就労継続支援B型クラブハウスはばたきからスタッ

フとメンバー、そして中には長期にわたって外部とのコミュニケーションができなかった青年も参加しています。

参加者は玄関から入って思い思いに席をとり、近隣に座った方々とのコミュニケーションをとり始めます。前回や前々回の話題を引き継いで話をすすめる人もいれば、全く新しい人とのコミュニケーションを始める人もいます。1ヵ月間が空いているので話すことはたくさんあります。はじめて参加する人がいるとみんなに自己紹介

してもらいます。今回は CSW として初めて参加した人、CSW の実習生として参加した白梅学園大学の学生が初参加として紹介されました。名前と顔を覚えることがコミュニケーションにつながっています。他の人々も簡単に自己紹介をしました。



「第二きよか」の恒例はベトナム珈琲と合唱です。家主がベトナムとの交流を30年にわたって続けている中で、ハノイの大学の先生と交流を深め、たくさんのベトナム珈琲を送ってくれました。また3月と7月にはこの家に滞在し、ベトナムの春巻きをつくってくれました。

最後の20分が合唱タイムです。地域に住んで第二きよかのスタッフをしている音楽の先生のピアノ伴奏で2曲から4曲を歌うことになっています。10月の白梅祭には地域の出し物として体育館での合唱に参加しているのですが、今年度は手違いで登録ができませんでした。そこで近くの老人施設でボランティアをすることになりました。この日はその練習も兼ねて「かなりや」「われは海の子」「虫のこえ」「おぼろ月夜」の4曲を歌いました。小学校唱歌で覚えていた「われは海の子」ですが、その7番の歌詞には「いで軍艦に乗り組み、我は護らむ海の国」があるのをはじめて認識しました。

最後にインフォメーションコーナーとして地域での取り組みをお互いに紹介して終わります。今回は地域包括センターの職員より、上水新町地域センターで開催されるボッチャ交流会のチラシが配られました。既に小川町1丁目地域センター、小川公民館では月に1回のボッチャ交流が進んでいますが、上水新町の地域センターでも交流が始まるということで楽しみです。

解散した後でスタッフは掃除や片づけを行い、次回に向けての反省会を行って終わりとなりました。第一月曜実施なので次回は10月6日(月)13時30分からです。

十三小等複合施設整備に関する

ワークショップに参加して

小川町1丁目在住 元小学校教員 藤澤孝文

小平市は、将来的な人口減少・財政バランスの悪化・施設の老朽化に対応するために公共施設マネジメント推進計画を策定し、公共施設の床面積20%削減を目指して様々な事業を開始しています。十三小を複合施設に整備する計画もその一つで、「市民の意見・アイデアを聞く」として開催されたのが今回のワークショップでした。(8/20と8/24に開催)

十三小の学区内にある二つの地域センターを一つにして校内に地区交流センターを組み込むという複合化計画には、「地域センターが遠くになったら利用しにくくなり活動が制限されそう」「小学校に一般人が自由に出入りできるようになるのは安全性で不安」等々多くの問題点が指摘されていました。

この日に示されたのは、校舎を北側に建てる案と東側に建てる案が出されましたが、問題になっている地区交流センターは、両案とも同じ位置にしっかり配置され

ていました。意見交換の対象になったのは、校舎の向き・教室の配置等が中心でした。「設計にあたって、先生たちの意見はどの程度生かされたのですか?」「音楽室や図工室、理科室などの特別教室は、それぞれ2部屋必要では」「外国語教室にも準備室が必要」「子どもたちの更衣室は?」「特別支援教室は、もっとたくさん必要」「音楽室と図書館が階段を挟んでいるとはいえ隣り合っているのは問題では」…。短時間でしたがたくさん疑問や意見が出されました。

残念だったのは、現場の先生たちの意見をしっかりとつかんでの配置案ではなかったこと、意見を聞くだけでそれに対しての見解は一切示されなかったこと。大切な税金を使って、学校を建て替えるのですから、複合化ありきではなく、子どもたちにとって最高の教育環境づくりを第一に考えて欲しいものです。

「こみっとプロジェクト」に力を貸してくれませんか？！

協力会員・賛助会員募集中

こみっとプロジェクト 森山千賀子

お互いの顔の見える人間関係、豊かな地域づくりをめざす「小平西ネット」において、ヤングケアラーやその家族等への生活支援等にかかわり合う「こみっとプロジェクト」が始まります。Commit には、「かかわり合うこと」などの意味があります。

「こみっとプロジェクト」は、家族(親・祖父母・きょうだい等)のケアや家事などを日常的に行っている子どもや若者発信で一緒にできることを考え、お互いができることを通してかかわり合い、お互いを知る機会を増やすことを目指します。本事業は、当面1年間はさわやか福祉財団の「地域助け合い基金」助成を得て行います。「地域助け合い基金」は生活支援コーディネーターとの連携を推奨しており、小平西ネット圏域にある2つの地域包括支援センター(けやきの郷・小川ホーム)の生活支援コーディネーター、同圏域のCSW(コミュニティソーシャルワーカー)、SSW(スクールソーシャルワーカー)等とも連携し、小平市民や小平市で働き学ぶ人たちが、

ヤングケアラー等の課題に関わり合える地域活動を進めています。活動に賛同していただける方々のご参加をお待ちしております。ご連絡を頂けましたら、ご説明に伺います。宜しくお願いいたします。

<活動内容>

・簡単な家事支援、買物代行・外出支援、きょうだいの世話、本人や家族の話し相手・相談、その他

【協力会員】年会費500円、ボランティア保険加入 協力金:1ポイント500円相当

【賛助会員】1口:1000円

◎問い合わせ Commit@siraume.ac.jp 042-313-5053

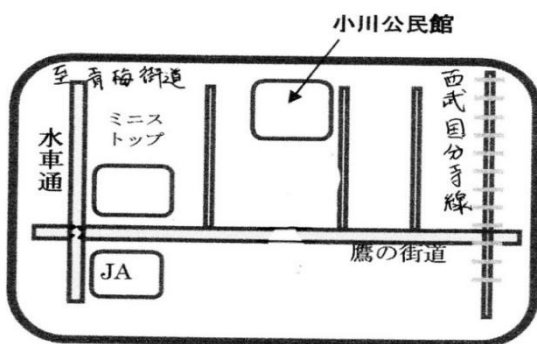
Commit Project

◎発起人 役員・運営委員

森山千賀子・細江卓朗・瀧口優・日向美砂子・午頭潤子・能松七海・広瀬実加

中学生無料勉強会「分かった会」

学習者(中学生)と支援者を募集！



毎週木曜日の夜18時から20時まで、中学生無料勉強会「分かった会」を行っています。小川公民館を借りて2014年からはじめ、今年で12年目になります。学年を分けて、3年生は9月から火曜日の夜も高校入試対策として行っています。現在生徒は15名、小平第二中学校、小平第四中学校、小平第五中学校等から来ています。勉強会では自分が必要な教科を学びますが、宿題やテスト対策なども一緒にやっています。指導要

領がかわってから授業が難しくなり、着いていくのも大変です。自宅で自分で勉強ができる子どもたちは別ですが、つまづきやすいところもたくさんあります。「分かった会」では学習者がつまづいているところと一緒に考えるようにしています。

支援者(講師)は現在10名ほどですが、仕事を持っていたりすると、時には半数しか来られないこともあります。9月からは火曜日もやっているの、こちらももっとたくさんほしいところです。勉強を教えるということよりも一緒に考えるということが大事です。

なお小平市として中学生の学習支援を行っているのは、地域学習支援課が行っている「中学校放課後学習教室」や生活支援課が行っている「生活困窮者学習支援事業」、子育て支援課が行っている「ひとり親家庭学習支援事業」等がありますが、参加者の条件が限定されているものが多くなっています。「分かった会」はだれでも参加できます。

12/6(土)2025 白梅防災イベント

～一緒に防災意識を高めよう～ 開催決定

昨年度、大好評でした白梅防災イベントを今年も実施いたします。このイベントは、(一社)小平青年会議所と、小平市社会福祉協議会と、白梅学園大学・白梅学園短期大学 子ども学研究所の合同企画となります。

午前中の「災害ボランティア シミュレーション」では、事前申し込み制で、実際にどのような災害ボランティアができるか、スマートフォンを使用しシミュレーションを行います。午後は自由参加の「わくわく防災訓練・ワークショップ」を開催予定です。

昨年度も好評でした、炊き出し訓練では美味しいお味噌汁を作ります。また今年度小平市が導入した【トイ

レトラック】も来場予定です。またワークショップとして、防災グッズプレゼント「ペットボトル LED ランタン作りワークショップ」も開催され、お持ち帰りいただけます。

お子様連れ大歓迎です！ご家族やご友人、近隣の皆様お誘いあわせの上、ご来場をお待ちしております。詳細はチラシをご覧ください。

白梅防災プロジェクトチーム一同

(※白梅防災プロジェクトは 2024.2025 年度 教育改革として、教職員からなるチームです。黄色の T シャツが目印です！)

◆7月から8月にかけての歌 金田利子

- ・七夕は科学とロマンの結びつき 若さを分ける筋なし理と文に
- ・8月は原爆の月対話せん 老若男女平和めざして
- ・第三次世界大戦起こるなら、人類壊滅 断乎避けたし
- ・戦争の映像見ながら幼児問う「”ごっこ”じゃないのになぜころしあう？」

ようこそ！小平市西地区の 地域ネットワークづくりのページへ

「お互いの顔が見える地域づくり」のために「大学ができることはなにか？」地域の皆さんと共に探っていきます。地域のみなさん、学生、教職員の積極的な参加をお待ちしています。

小平市西地区の地域ネットワークづくり（白梅学園大学・白梅学園短期大学）

◇小平西地区地域ネットワークで検索して頂ければ、小平西地区の地域ネットワークづくりのページをみることができます。『小平西のきずな』の第1号からご覧になれます。よろしければ、覗いてみてください。

白梅学園大学・白梅学園短期大学の学園祭

ー2025年10月18日(土)・19日(日)に開催しますー

小平西地区地域ネットワークは、白梅防災プロジェクトと同室で、お休み処・ニュース「小平西のきずな」の拡大展示、防災活動・防災グッズの展示等を行います。ちょっとひと休みも兼ねてぜひお立ち寄りください。ご来場をお待ちしております。B21あるいはB22講義室(予定)

◎第23回白梅介護福祉セミナー2025（10月18日（土）13：30～（学園祭内企画）

オーストラリアの介護の現状～日本の介護福祉との比較～&卒業生交流会

今年度は、オーストラリアに留学し介護の現場実践を行った在学生からお話を伺います。

皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～③)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?

お待ちしております！

① ほっとスペースさつき

毎週火曜と木曜 10:00～16:00 (移転先検討中)

② ほっとスペース第二きよか

毎月第1月曜 13:30～15:30 参加費 200 円 (移転先：小平市小川町 1-755-2-106) 問合せ：瀧口優 TEL: 080-3450-6878

*2023年7月10日(月)「ほっとスペース第二きよか」がスタートしました。

*第一もしくは第二月曜に実施しています。(今後の予定は、10月6日、11月10日、12月1日、1月5日) 13時30分～15時30分です。

③ カフェなかじま

毎月第1水曜日(祝日の場合は第2水曜日) 13:30～15:30 中島地域センター 参加費 100 円

④「分かった会」小中無料学習教室

毎週木曜日 18:00～20:00 (小川公民館) 問合せ：奈良 勝行 (講師募集中!) TEL:090-4435-4306

9月からは火曜日も中学校3年生用として開室しています。

イベントの予定

- ・10月11日(土) 10時～ 小川西町公民館まつり(～12日)
- ・10月18日(土) 10時～ 白梅学園大学学園祭(～19日)
- ・10月26日(日) 10時～ おがわんフェスティバル(小川ホーム)
- ・11月02日(日) 11時～ だれでも食堂ゆらり(小川西公民館)

西ネットの今後の予定

- 大学世話人会: 10月14日(火) 18時～
- 地域世話人会: 11月11日(火) 18時～
- 大学世話人会: 12月09日(火) 18時～
- 地域懇談会: 12月16日(火) 18時～

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	大学世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳
2	足立隆子・今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	大内智恵子・久保田進・ 杉浦博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野晶哲
4	桜田 誠 細江卓朗	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行

西ネットの世話人を募集しています。瀧口まで連絡してください。(takiguchi-masaru@iaa.itkeeper.ne.jp)

お願い：この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当までお申し出下さい。

投稿募集：このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。

メール：ever.onward.nara@xd5.sonet.ne.jp

編集後記：「小平西のきずな」も今回で55号を迎えます。西ネットのスタートから13年が経過していますが、今後も人と人をつなげることを柱に取り組みを続けたいと思います。(瀧口)。